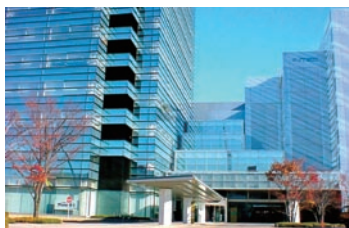


Introduction
Case ITソリューションネットワーク&アウトソーシング
事業本部
ネットワークテクニカルセンター
片山 直樹 氏ネットワーク&アウトソーシング
事業本部
ネットワーク技術部
角本 健太郎 氏

User Profile



株式会社 インテック

- 東京本社: 東京都江東区新砂1-3-3
- 代表取締役社長: 金岡 克己
- 設立: 1964年1月11日
- 資本金: 208億30百万円
(2007年4月1日現在)
- 売上高: 1,098億85百万円
(2006年3月期連結)
- 従業員数: 3,238名
(2007年4月1日現在)

1964年に株式会社富山計算センターとして創業。現在ではITコンサルティングからシステムインテグレーション、データセンター、CRMソリューションなど、多彩なITソリューションを展開している。全国24カ所の拠点のほか、中国の武漢、上海にも進出。2000年には東京電力などと共同で、災害に強い堅牢なファシリティのデータセンターを運営する株式会社アット東京を設立。全国に広がるネットワークと多彩なソリューションで、多くの企業のネットワークやシステムを支えている。

株式会社インテック 様

データセンターや
インターネット接続サービスで、
ネットワーク回線の効率運用を実現

回線集約など顧客への新たな提案が可能に

株式会社インテックでは、ネットワークのアウトソーシングをはじめ、データセンター、インターネット接続サービスなど、様々なITソリューションを提供している。世界最大級のデータセンター「アット東京」をはじめ、新宿、横浜、大阪、仙台、富山など、堅牢なデータセンターで顧客企業の大切なデータを預かるほか、金融・保険・証券向けや製造・流通・サービス向けなど、業種に応じた業務サービスやネットワークソリューションも充実している。こうしたネットワークサービスにおいては、堅牢さと確かさが要求される。インテックが提供しているインターネット接続サービスIIC(INTEC Internet Connections)では、各顧客が必要とする最適な帯域を確実に割り当てるために、アンリツネットワークスの帯域制御装置「PureFlow GS1」を導入。高い精度と圧倒的なコストパフォーマンスで広帯域回線のトラフィックを制御し、安定的なサービス運用を実現している。

ブロードバンド化の進展で、
高まる広帯域制御へのニーズ

「インテックでは多彩なネットワークソリューションを幅広い分野のお客様にご利用いただいておりますが、共通して言えることは、よりシビアなサービスを要求されるようになってきているということです。そうした中で各お客様が必要とされる帯域を提供するためには、精度の高い帯域制御装置は欠かせません」

ネットワーク&アウトソーシング事業本部 ネットワークテクニカルセンター
片山 直樹 氏

これまでもインテックは、帯域制御装置を利用して顧客ごとに必要な帯域の割り当てを行ってきた。しかし、既存のシステムで使ってきた従来機器のサポートが切れてしまうことに加えて、ブロードバンド化の進展で、より広帯域への対応が必要となってきたことから、後継機種を求めていた。

「我々のサービスをご利用いただいているお客様の中には、一般のエンドユーザーの方が接続されるポータルサイトもあります。そのようなサーバの公開には、より広い帯域を必要とするケースも多くあります。また、100Mbps超の帯域割り当てが必要な新規顧客の接続が予定されていたこともあり、Gbps単位の回線を制御できる新たな機器の検討が急務となっていました」(片山氏)。

また、制御の精度も、課題の一つだった。

「特にエンドユーザーからのアクセスが集中するサーバなどの利用においては、その時々に応じて必要な帯域を正確に割り当てるのが重要です。メール、Webサービスといった目的ごとに帯域を割り当てる場合も同様です。しかし帯域の制御には、どうしても

プラスマイナスの幅が生じます。このぶれが小さければ小さいほど、正確な帯域の割り当てができるため、精度の高い装置を求めていました」

ネットワーク&アウトソーシング事業本部 ネットワーク技術部
角本 健太郎 氏

高性能とコストパフォーマンスが
導入の決め手に

そこで、住商情報システムが提案したのがアンリツネットワークスのPureFlow GS1シリーズだった。インテックでは、ネットワークに負荷をかける装置や測定装置も含めた検証用の機器一式を使って1カ月程度検証を行った。

「その間、仕様などについて課題となったものについては、住商情報システムとアンリツネットワークス両社で検討して対応するなど、サポート面も充実していました」(角本氏)。

その結果、機能面だけでなくサポート面も評価されたの導入となった。

片山氏は、「CPUの稼働率やメモリの空き容量など、運用中に記録したり、確認したりしたい数値がいくつかありますが、当初対応されていなかったものについて、バージョンアップで対応いただけたのはたいへん助かりました」と語る。

また、コスト面でのインパクトも大きかったという。

「導入済みの台数はまだ限られていますが、数が多くなればなるほど、コスト面での優位性が高くなります。我々が求める最大のパフォーマンスを、たったこれだけのコストで得られるということも、導入の決め手の一つです」(片山氏)。

±1%未満という高精度を実現 ネットワークの設計も容易に

今回の導入では、大幅なネットワークの変更等はなく、機器の入れ替えのみが行われた。導入後の効果についても、インテックにとって満足な結果が得られた。

「帯域制御の精度は、非常に高いと感じました。テスト時に計測したところ、通常は±3%から±5%くらいを目安にしていますが、±1%未満という精度で驚きました。パケット送出間隔のゆらぎも確認しましたが、非常にしっかり制御されていると感じています」(角本氏)。

「ネットワークの設計を行う側にとって、ゆらぎが少ないということは、設計しやすいということでもあります」(片山氏)。

インテックのサービスを利用するユーザー企業にとって、ブロードバンドでの帯域制御は必要だと、角本氏は語る。

「今まではシステムごとに回線を分けて利用していましたが、今後は回線を共有し、必要な分を割り当てて使っていくという考え方が出てきています。



こうした状況の中で、システムごとに帯域を制御する技術はますます必要になってきます。特に広帯域のトラフィックを制御できる装置は、我々にとってもお客様にとっても、有用な機器だと考えています」(角本氏)。

顧客環境の変化に伴って順次導入を検討 音声等のIP化も視野に

インテックで導入開始されたPureFlow GS1、今後は従来機器の保守期限切れによる置き換えや、顧客企業からのニーズ増大に伴い、順次導入拡大を検討していくという。また今後、様々なものがIP化されていくにつれ、帯域制御装置の活躍する場面が増えていくと片山氏は予想する。

「企業間ネットワークや内線電話なども、IP化されていくと思います。特に音声を扱うケースなどでは、通信品質が低下すると音が切れたりします。これまでルーターなどで帯域制御していた部分も、通信品質を守るという観点から見ると、ますますシビアな制御が求められます。そうした場面で置き換わっていくこともあると考えています」(片山氏)。

「複数のシステムで利用する回線を統合していく動きは、確実に加速しています。回線を分けて使うには、帯域制御が必須になってきます。そんなソリューションを提供できるようになりたいと思っています」(角本氏)。
今後、ますます進むブロードバンド化において、帯域制御は必須のものとなっていくに違いない。PureFlow GS1は、高い精度とコストパフォーマンスで、新時代の広帯域回線のトラフィック制御を支えていく。

製品概要

トラフィックシェーパ PureFlow® GS1 シリーズ



10Kbpsから100Mbpsまでの帯域幅で、帯域制御を行うトラフィックシェーパ PureFlow® GS1シリーズ。きわめて精度の高い帯域制御は、独自に開発した高精度帯域制御エンジンが実現している。制御しているトラフィックごとの状態も、こまかくモニタリング。情報系、勘定系、またVoIP等の音声系も含め、これまで個別に回線を使用していたアプリケーションを、通信品質を確保しながら統合、より効率的な帯域の使用を可能にする。

私が担当しました



住商情報システム株式会社
プラットフォームソリューション事業部門
IT基盤ソリューション事業部
SIソリューション営業部営業第1チーム
チームリーダー

嘉松 哲治

PureFlow GS1をご提案するにあたり、提案当初は一部インテック様の要求機能を満たせない部分もありましたが、アンリツネットワーク様に迅速に機能改善いただいた結果、最終的に納得頂ける形で受注することが出来ました。インテック様はユーザーにサービスを提供する企業の為、高信頼性、高機能は勿論ですが、高い技術サービスを非常に重要視されます。そういう意味でも現場の生の声を迅速に反映できた国産メーカーのアンリツネットワーク様の技術体制も導入決定の大きなポイントだったと思います。

インターネット公開サーバのユーザ別帯域制御

■制御ポリシー

- IPアドレスベース
- 上り、下り両方向に設定

■設定

【ユーザA】

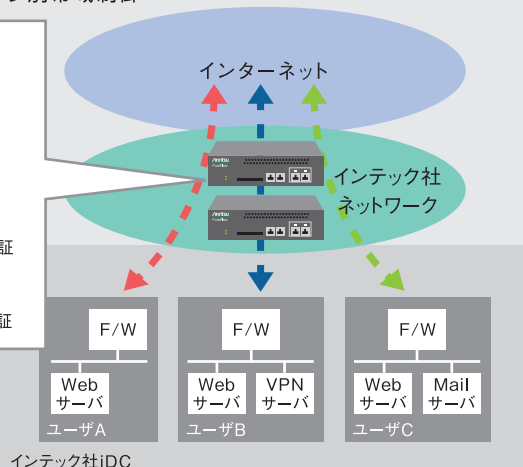
- ユーザA全体で10Mbps割り当て

【ユーザB】

- ユーザB全体で20Mbps割り当て
- VPNサーバ向けには5Mbpsを最低保証

【ユーザC】

- ユーザC全体で30Mbps割り当て
- Mailサーバ向けには3Mbpsを最低保証



●開発・製造

Anritsu

アンリツネットワークス株式会社

営業部

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1

新宿グリーンタワービル

TEL 03-5320-3565 FAX 03-5320-3570

an-post@zz.anritsu.co.jp <http://www.anritsu-networks.com/>

●製品に関するお問い合わせ

SCS 住商情報システム株式会社

IT基盤ソリューション事業部 SIソリューション営業部

〒104-6241 東京都中央区晴海1-8-12

晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ

TEL 03-5859-3034 FAX 03-5859-3108

GS1-info@ml.scs.co.jp <http://www.scs.co.jp/>